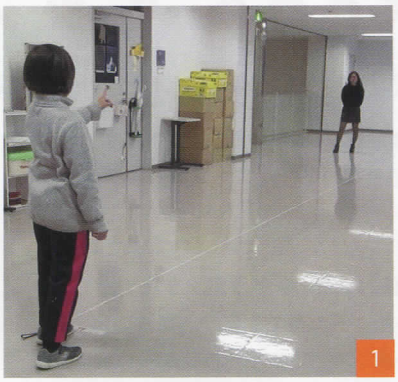
算数・数学クリニック

文学部 教育学科 穴田恭輔



- **実施日**：2018年4月12日～2019年2月27日（主に水曜日）/計39回
- **場　所**：神戸女子大学須磨キャンパス M館 M315
- **対　象**：大学周辺地域の小中学生
- **主催等**：神戸女子大学文学部教育学科穴田研究室
- **参加学生数**：4名

「算数・数学クリニック」は開設から10年以上が過ぎました。最近では、こうべ学びの支援センターから案内されて来訪される方もあり、神戸市の学習支援機関からも認知されてきているようです。

「算数・数学クリニック」の内容は本学周辺地域で算数・数学の学習につまずいている子どもたちへの学習支援です。学校では取り残されてしまうこともあるそのような子どもたちに学校での学習とは別に丁寧に指導を受けられる環境があれば、自分に合ったペースでゆっくりと学習できると考え、寺子屋のように個別に指導を行っています。来訪する子どもたちを指導するスタッフは、穴田准教授と小学校教員を目指す本学教育学科の学生たちです。また、本学の認知心理学、臨床心理学の専門家と連携協力体制をとることもあります。開設以来、参加した子どもたちの延べ人数は 2,200 名を超えています。この活動を通して、日常生活の中で「数量・形」に係る体験をすることの必要性を感じています。

今年度の活動シーンを2つ紹介します。自分の歩幅の平均をきめるために実際に歩いてその距離を測定しました。まず、各自が歩いて20歩の距離を測ります。巻き尺の目盛りを読みます。これを3回行います。それぞれの回について1歩分の歩幅を計算します。そして、これら3つの値の平均を計算しました。大きさの違ういくつかの数量をならして1つ分(自分の歩幅)の見当をつけるという平均の意味と有用性を考え、活用できるようになることがこの活動の願いです。もうひとつは、重さの測定です。缶コーヒーをはかりにのせて目盛りを読み取りますが、缶コーヒーの中身だけなら何グラムでしょうか?

参加した子どもたちにとって「算数・数学クリニック」は、時間がかかっても自分なりの理解をして自分のものにしていく場なのです。2018年度に参加した子どもたちの延べ人数は 121 名でした。

1 20 歩を歩く
2 巻き尺の目盛りを読む
3 缶コーヒーの中身の重さを考える